

キヌヒカリ栽培ごよみ

月	冬期間	5			6			7			8			9			10			収穫後									
生育段階		育苗期 (6月5日)			活着期			有効分け時期			無効分け時期			幼穂形成期			穂ばらみ期 (8月7日頃)			出穂期			乳熟期～登熟期			成熟期 (9月20日～30日)			収穫後
作業	耕起	灌水選	種子消毒	播種	元肥	代かき	田植	除草	第一回追肥	第二回追肥	第三回追肥	第一回中追肥	第二回中追肥	第三回中追肥	防除①	防除②	防除③	刈り	乾燥	調整	稲ワラ処理	大雨で流れ出さないようにしよう							
水管理	代かき				中干し			水田			中干し			水田			落水 (早期落水は品質低下)												

きぬむすめ栽培ごよみ

月	冬期間	5			6			7			8			9			10			収穫後									
生育段階		育苗期 (6月5日)			活着期			有効分け時期			無効分け時期			幼穂形成期			穂ばらみ期 (8月19日頃)			出穂期			乳熟期～登熟期			成熟期 (9月20日～30日)			収穫後
作業	耕起	灌水選	種子消毒	播種	元肥	代かき	田植	除草	第一回追肥	第二回追肥	第三回追肥	第一回中追肥	第二回中追肥	第三回中追肥	防除①	防除②	防除③	刈り	乾燥	調整	稲ワラ処理	大雨で流れ出さないようにしよう							
水管理	代かき				中干し			水田			中干し			水田			落水 (早期落水は品質低下)												

ヒノヒカリ(にこまる)栽培ごよみ

月	冬期間	5			6			7			8			9			10			収穫後									
生育段階		育苗期 (6月5日)			活着期			有効分け時期			無効分け時期			幼穂形成期			穂ばらみ期 (8月25日頃)			出穂期			乳熟期～登熟期			成熟期 (9月25日～10月5日)			収穫後
作業	耕起	灌水選	種子消毒	播種	元肥	代かき	田植	除草	第一回追肥	第二回追肥	第三回追肥	第一回中追肥	第二回中追肥	第三回中追肥	防除①	防除②	防除③	刈り	乾燥	調整	稲ワラ処理	大雨で流れ出さないようにしよう							
水管理	代かき				中干し			水田			中干し			水田			落水 (早期落水は品質低下)												

※(にこまる)は、出穂期・成熟期がヒノヒカリに比べ3～5日程度遅くなります。

(1) 基幹防除例(キヌヒカリ・きぬむすめ・ヒノヒカリ・にこまる)

防除時期	病害虫名	防除薬剤	使用回数	10a当たり散布量	備 考
収穫後～2月末	ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、スズメバネ、ジャポニカ	集団一斉耕起			集落単位(10ha以上)で実施する。
5月上旬・中旬	ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ	集団一斉耕起			3月までに一斉耕起のできない地域(農作の作付率が高く、休耕田が点在するような地域)では5月に行う。
浸種前		灌水選を励行する			(うるち米の灌水選は、水10ℓに食塩2.0～2.5kg、または水10ℓに硫酸2.2～2.9kgとする)
種子消毒	ばか苗病、褐条病、もみ枯細菌病、イネシガレセンチュウ	モミガードC水剤、スミチオン乳剤	200倍(1回)、1,000倍(1回)	24時間種子浸漬(風乾)	灌水選後水洗いを励行する。風乾をすると効果が高くなります。
播種時又は播種後	苗立枯病	タチゲレン液剤	500倍(2回)	1箱当り500ml	タチゲレンとダコニール1000は、7日以内の近接散布をさける。ダコニール1000は、播種時から熟化期に1000倍で1箱当り500mlを灌注。但し、播種14日後まで2回以内。
育苗期	ヒメトビウンカ(綿葉枯病)、ツマグロヨコバイ(萎縮病)	エルサン乳剤	2,000倍(7/2)		畦畔や周囲の雑草を除草し、育苗箱はできるだけツマグロヨコバイの侵入防止に置く。
田植の3日前～当日	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガイ、イネニメズムシ	フルラテラチェス箱粒剤(育苗箱処理)	(1回)	1箱当り50g	紋枯病・いもち病の多発田では、エパーゴルド箱粒剤50g/箱(1回)を施用する。
田植直後	スクミリンゴガイ(ジャンボタニ)	ジャンボたにくん	(60/2)	1～2kg	代かきは均一にし、田植後はできるだけ浅水に管理する。
防除①	7月中旬、7月下旬、7月下旬	コブノメイガイ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	MR.ジョーカーEW	2,000倍(14/2)	穂播期とは一圃場で90%出穂した状態です。
	7月下旬、7月下旬	紋枯病	モンカフトアワブ	1,000倍(14/3)	
	7月下旬	いもち病	ダブルカットアワブ	1,000倍(穂播期まで)	
防除②	8月中旬、8月下旬、9月上旬	カメムシ類、トビロウウンカ、ツマグロヨコバイ	スタークル粒水剤	2,000倍(7/3)	いもち病、紋枯病発生のおそれがある場合は、アミスターEイト1000倍(14/3)を散布する。
	9月上旬	コブノメイガイ	ロムダンゾル	1,000倍(21/2)	

(2) 粒剤一貫体系防除例(キヌヒカリ・きぬむすめ・ヒノヒカリ・にこまる)

(2) 粒剤一貫体系防除例(キヌヒカリ・きぬむすめ・ヒノヒカリ・にこまる)

防除時期	病害虫名	防除薬剤	10a当り散布量
田植3日前～当日	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガイ、イネニメズムシ	フルラテラチェス箱粒剤(育苗箱処理) ※基幹防除の備考を参照	一箱当り50g(1回)
7月中旬、7月下旬、7月下旬	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	イモチエース、キラップ粒剤(35/1)	3kg
8月上旬、8月中旬、8月下旬	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類	スタークル粒剤(7/3)	3kg

除草剤使用基準 稚苗移植栽培(10a当り使用量)

- ◎1年生・多年生雑草同時防除(田植同時処理・一発処理)

田植直後～12日(1回)	アールタイプ1キロ粒剤	1kg
--------------	-------------	-----
- ◎1年生・多年生雑草同時防除(省力一発処理)

田植後0日～12日(1回)	ミスターホームランフロアプル	500ml
---------------	----------------	-------
- ◎1年生・多年生雑草同時防除(超省力一発処理)

田植後5日～15日(1回)	ゼータファイジャンボ	40g×10個
---------------	------------	---------
- ◎1年生・多年生雑草・ジャンボタニの食害防止剤

ジャンボタニの食害防止と1年生・多年生雑草防除	田植後0日～10日(1回)	ショウリョクジャンボ	50g×10個
-------------------------	---------------	------------	---------

※除草剤使用上の注意

- ① 藻類、ウキ草類の多発田では通常除草剤使用前にモゲン粒剤 3kg/10a (45/3) を施用する。
- ② 圃場は均平に努め、代かきはよいにいにする。
- ③ 水管理に注意し、3～5cmの湛水状態で散布して、1週間程度は落水しないようにし、かけ流しや田面の露出はさける。
- ④ ジャンボ剤については、5cmの湛水状態で散布する。
- ⑤ 漏水田では特に除草剤の使用に十分注意する。
- ⑥ 使用時期(特に、ゼータファイジャンボは、田植後5日以降)には、十分注意する。

◎重要病害虫

病害虫名	防除方法	イネシガレセンチュウ被害(原原虫)	綿葉枯病(ヒメトビウンカ)	紋枯病(上位葉への発病)	斑点米カメムシ被害
イネシガレセンチュウ	種子更新及び種子消毒の徹底を行う。				
綿葉枯病	越冬害虫であるヒメトビウンカの保有するウイルスが原因で起こる病害であるため収穫後の圃場は出来るだけ早く耕起する。感病期間は、幼穂期～分け時期であり、育苗期の防除と穂処理剤を組み合わせた体系的防除を行う。				
紋枯病	高温条件が続くと発病が増加する。特に、前年に発生が多いと感病の圃場が多く、発生を助長する。上位葉への発病が見られる場合、バリタジン液剤を株元までかかるよう散布する。(出穂期以降)				
斑点米カメムシ	カメムシの越冬対策として、冬場に圃場周辺の雑草を除草する。畦畔や周囲の雑草を徹底する。出穂2週間まで徹底してカメムシのすみか無くす。				

良質米生産のポイント

1. 土づくり
2. 健苗育成
3. 間断かんがい励行
4. 病害虫の適期防除
5. 適期刈り取り

●土づくり対策

- 深耕
 - 生ワラの全量還元
- 石灰チップの施用は、耕起時に10a当り20～30kgとする。水田の乾土効果高めるため、耕起は12月～2月末までに行う。

土壌改良資材	施肥量の目安(10a当り)	
	標準水田	秋落ち水田
農薬アップ		
ケイ酸	20.0%	
石灰	1.0%	
リン酸	2.5%	
鉄	12.0%	
	100kg	140kg

◎ケイ酸の施用効果

- ・茎葉を強くし、倒伏の軽減や、病害虫に強い株を作る。
- ・受光体制を良くすることで、登熟分を上向きさせるとともに、乳白米の発生を抑制する。

◎鉄の施用効果

- ・根を保護し、根腐れ秋落ちの防止、養分吸収の向上に役立つ。

●標準型施肥例

肥料名	施肥量kg/10a		成分量		
	元肥	1期2期追肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
標準型	米一番(12-14-12)	40	9.6	7.2	9.6
	穂肥一番(12-4-12)	20	20		
野菜跡地型	P K化成(0-2.0-2.0)	30	4.8	7.6	10.8
	穂肥一番(12-4-12)	20	20		

●省力型施肥例

肥料名	施肥量kg/10a		成分量		
	元肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
キヌヒカリ	全肥	45	10.8	3.6	4.0
	側条	40	9.6	3.2	3.6
きぬむすめ・ヒノヒカリ・にこまる	全肥	45	10.8	3.6	4.0
	側条	40	9.6	3.2	3.6

- (注1) キヌヒカリは初期分づつを促すため、元肥を一割程度増やしてください。
- (注2) 省力型施肥例では、P・K成分を低くしていますので「農薬アップ」を必ず施用し土づくり対策を行ってください。

一発処理後とりこぼし雑草がある場合(10a当り)

- ◎サンパンチ1キロ粒剤 1kg(湛水散布)
 移植後15日～10月上旬 3.5葉期
 但し収穫60日前まで / 1(1年生・マツバヤシ・ホタルイ・ウリカワ・ミスガヤツリ)
- ◎クリンチャーパスME液剤(落水散布)
 移植後15日～10月上旬 葉期
 但し収穫50日前まで / 2
 薬量 1,000ml / 希釈水 70～100ℓ

防除の際は飛散(ドリフト)に注意しましょう。

防除記録は必ず記載しましょう!

農薬(毒物・劇物)の購入には必ず印鑑を!! 農薬散布は必ずマスク・防除衣を着用しよう。

※栽培履歴は忘れず記帳!!

※品質アップは種モミの更新から!!

◎農薬の使用基準は変更になる場合があるので注意しましょう。

◎農薬使用基準を守り、適期適正防除を行いましょう。

◎農薬による急病で診療先がわからない場合は、県救急医療情報センター TEL 073-426-1199または426-1252へ